





ヒグマ出没多数によりコース規制行っています。



↑ 大学沼の上部で草を食べ続ける3頭の親子。鴨沼から高原沼の間での確認が続きました。

緑沼付近で30分程草を食べ続ける単独のヒグマ、大学沼付近に連日来ていた親子3頭のヒグマなど、近距離での遭遇が続きました。どちらもこちらに気が付いても逃げない状況。ヒグマの人慣れ、人のヒグマ慣れを防ぐためにも、現在コースを規制し、緑沼までの往復としています。(今後も状況に応じてコース開放を変更しています)

★ヒグマ情報センターの活動、沼巡りコースの情報などはSNSでも発信中ですので覗いてみてくださいね。

子鹿成長中!!

ヒグマ情報センター駐車場や沼など、至る所で出会うこの“シカ親子”。
どうやら、スタッフの顔を認識しだした?!
そーっと、潜んで動画を撮影するセンター員。
小鹿は様子を伺いながら、少しずつ近づいてきます・・・。
お母さんは『いつものお兄さんだよ、大丈夫。』なんて言っているのかも?!
この後、無事に横切り森の奥に入っていました。
きっと、これからも頻繁に出会うであろうこの親子。
小鹿の成長が楽しみです(^ ^)



↑ 息を止めて動画を撮影するセンター員。



警戒しながら横切る子鹿。



【くまニュースVol.2】

～母になった「カユイ」～



↑ 2頭の子グマをつれて度々高根ヶ原の斜面に現れているカユイ。背中側の毛並みが一律ではなくはげた様になっているのが特徴。

2020年、高根ヶ原の斜面に1頭のヒグマが確認されました。そのヒグマは特徴的な体をしており、非常に毛並みの状態が悪く見え、盛んに体を周辺にこすりつけてかゆそうにしていたそうです。その様子を見た熟練のセンター員がそのヒグマに付けた名前が「カユイ」。そのままです...(;^_^A

カユイの姿を初めて見たセンター員はその毛並みの荒れ具合を見て長生きができないのではないか、と感じたそうです。それは他の野生動物など(例えばキツネなど)ではこうした毛並みが乱れる皮膚病を発症してしまうと長くは生きられないことが多い為。同じようなハンデを負ったカユイも同じようにこの大雪の大自然で生きていくのは難しいのではないかと...

ところが数年経ち、今年2023年カユイは母親になって高根ヶ原の斜面に姿を再び現したのです。2頭の当歳(今年の冬生まれ)の子グマを連れて。母の回りで元気に遊びまわる子供たちの愛らしさ。雪渓を滑り降り、互いにじゃれあう子供たちのそばで高根ヶ原の斜面を悠々と歩く姿に、名付け親のセンター員も嬉しそうでした。

数日斜面で採餌をしてはまた別な場所へ移動し、また数日すると戻ってくる、そんなサイクルで斜面を賑わせてくれているカユイ親子。母親として高根ヶ原に再び現れたカユイも、その子グマ達もこの大雪で元気に過ごしていつてくれることを願っています。



↑ 2020年7月27日、高根ヶ原斜面に現れたカユイ。この時は今よりも毛が薄いのが分かります。



↑ 2023年7月5日、高根ヶ原にまだ残る雪渓を歩くカユイ。右側から見るとお尻の上と脇腹あたりの毛が薄くなっています。

1日1日ごとに季節が塗り替わる



滝見沼

すっかり緑に包まれました



土俵沼



エゾ沼

大学沼



エゾ沼
湯の沼

鴨沼

緑沼

土俵沼

バショウ沼



緑沼までのコース上にもあちこちにヒグマの痕跡があります！



高原温泉駐車場から高根ヶ原斜面のヒグマを見るセンター員と登山者



大学沼
ヒグマ親子が居ついています



ヒグマの出没により、コースの制限や全面閉鎖をする日が続きました
7月18日時点では緑沼までの往復となります

高原温泉沼めぐり 登山コースの様子



エゾ沼の携帯トイレブースを建てました！が、しばらく通行止めに...



タニマスミレ



オニヤンマの脱皮



高原温泉



タイセツヒナオトギリ

ここ大雪の季節の変化は本当に目まぐるしく移ろいゆきます。ヒグマ情報センターが2023年の業務を開始して約1か月。

沼ニュース1号でご紹介した通り、今年は雪が少ないせいか雪解けも非常に早く高根ヶ原の斜面にあった雪もどんどん溶けて、沼巡りコースの多くの場所では夏道が現れ、この1か月で季節を2つか3つ飛び越えたような感じです。まるで季節が猛ダッシュで大雪を駆け巡っているようなそんな風景が広がっていく7月後半の沼巡りコースです。

高原温泉
ヒグマ情報センター

大雪山国立公園高原温泉 沼巡り登山コース

第3号 (7月18日)
発行：ヒグマ情報センター